

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和4年7月21日 ~ 令和5年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 《委託研究：VIその他夜間中学における教育活動充実に関すること》 ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発 ウ. 他市町村の夜間中学や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携 ク. ICTを活用した生徒の学習活動の支援について
調査研究のねらい	<p>在籍者数59名のうち日本人が7名となり、夜間学級の役割として多様な対応が求められている。日本に仕事を求める外国人の増加に伴い、夜間学級における外国人の在籍者が占める割合も増えている。今後の多文化共生社会の形成のため、互いの立場を尊重し合うとともに、地域社会の中で相互理解し認め合える関係性を構築する必要がある。</p> <p>昨年度の調査研究については、新型コロナウイルスの影響により、計画していた行事等をすべて実施することができなかった。そのため、当該中学校の昼の生徒や他校との交流が十分行えず、生徒間の繋がりも深めにくい状況があった。</p> <p>今年度は、就労しながら学習を続けている生徒の努力や夜間学級の現状等を改めて広く周知し、生徒のエンパワメントに繋がる取組を推進したい。</p> <ol style="list-style-type: none">① 国籍、年齢、学習経験等の異なる、多様な生徒に対応できる教育課程や学習指導法を調査研究する。② 生徒の文化的背景（言語、宗教、食事、習慣など）を理解することや、多文化理解を深めるための研修・研究を充実させることで、教職員の専門性を高めるとともに指導力の向上を図る。③ 学習指導だけでなく、さまざまな学校行事を通じて生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深める。特に、異なる文化的背景についてお互いの理解が深められるような行事の実施を推進する。さらに、行事の内容を工夫し、全ての生徒理解につながるような取組を通じて調査研究を推進する。また、高齢者や外国籍の生徒が、学習者用端末等のICT機器を積極的に活用できる指導方法を研究する。

<p>調査研究の成果</p>	<p>本年度も、外国籍の生徒の割合が88%となり、多国籍化(16ヶ国)も進んでいる。また、若年層の生徒が増加したことにより、生徒の平均年齢は以前に比べて下がる傾向にある。さらに、英語圏ではない生徒が増加したことにより、以前と比較して、より個に応じたきめ細かい指導の必要性が高まっている。そこで、以下の観点をもとに、指導の充実と調査研究を実践した。</p> <p>○個に応じた指導体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の教育的ニーズに対応できるよう、入学時の面談では、一人ひとりの課題や目標を適切に把握することに努めた。また、当該校が独自に設置している各学習コースについて、可能な限り複数の教員を配置し、丁寧な指導体制の構築に努めた。 <p>○学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の国語の学習指導要領を基本として、日常的に使用する日本語を更に簡易に表現したものを活用し、学習した内容を日常生活に生かせる教材を取り入れたことにより、学習に対する興味関心を高めることができた。 ・学習者用端末を授業で頻繁に活用することで、生徒の興味関心をより高めることができた。また、情報教育担当者とICT支援員による教職員対象研修を行うことにより、授業でのICT活用促進に資することができた。 <p>○校内連携による指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学を希望する生徒に対して、授業前に個別指導に取り組んだ。また、大阪府教育庁から配置された日本語指導支援員が、生徒の学習の進捗状況を教職員と共有することにより、より連携して指導を行うことができた。さらに、日本語指導支援員が教材を紹介するなどして、教職員全体の指導力向上を図ることができた。 ・研究部主催の研究委員会を毎月実施し、生徒一人ひとりの国語(日本語)の指導状況や習熟度を確認し、教職員全体で共有するように努めた。また、使用教材の情報を共有するなどして、具体的な指導に生かすことができた。 ・毎月1回、生徒指導部主催の「情報交換会」を開催し、生徒の出席状況、家庭や就労の状況等をより細かく報告し合い、共有と連携を推進した。
----------------	---

○公開授業等による夜間学級の周知

・9月8日（木）

研修の一環として当該校夜間学級に他市の関係機関や、他市教職員が見学。

・10月26日（水）、27日（木）

オープンスクールを設定し、本市教育委員会及び市内小中学校の教職員に案内。

・12月20日（火）

他市町中学校の校長・教頭・首席・教員が、授業参観及び外国籍生徒に対する指導方法の助言を求め来校。（日本語指導支援員が、系統的な学習指導や授業展開等について助言）

・12月12日（月）、26日（月）

産経新聞夕刊に、当該校の特集記事「夜間中学はいま（学び舎の風景）」が掲載された。また、市教委生涯学習課発行広報誌にも「知ってほしい！ 夜間学級」が掲載され、効果的に地域への周知を図ることができた。

・2月15日（水）～21日（火）

市役所内ロビーにおいて、生徒が制作した作品を展示。夜間学級の紹介ポスターも掲示し、周知に努めた。

上記活動では、夜間学級の存在と実情を周知することができ、潜在的な入学希望者(対象者)を掘り起こす広報活動の一環としても有意義であった。

○人権教育の推進

教職員をA・Bの2チームに分け、年間2回の研究授業を実施した。

・7月13日（水）

「コロナ禍の差別や偏見をなくし、お互いを大切にする気持ちを育もう」を主題として、Aチームが授業実践。

具体内容は、「コロナ感染下の現実（医療従事者や感染者への差別など）」「差別をなくすためのシトラスリボンプロジェクト（プロジェクトの目的や各団体の賛同などの状況）」「シトラスリボンの制作」「コロナの収束を願い、平和な日々が来ることを願って（国際手話を用いた体験活動）」。

絵本や写真、イラストなど視覚に訴える資料提示を積極的に行いながら、日本語の理解が十分でない生徒にも伝わ

るように工夫した。シトラスリボンを生徒が制作した。生徒の感想文から、人権感覚の高まりを確認できた。

・11月30日（水）

「『こんな世界があるんだ』から尊敬・啓発・他者理解の大切さと日常のコミュニケーションの場から日本語学習のアイデアを考える。」を主題として、Bチームが授業実践。テレビ番組「はじめてのおつかい」1～2話を視聴。人の優しさや他者理解に向けた努力の大切さを学習。また、日本語を十分使えなくてもコミュニケーションを取れることなどについて触れた。生徒が理解できるよう、各言語に翻訳することに労力を費やし、生徒の心情に訴えかける指導内容となったと考えている。

○教職員研修の充実と指導力向上

・5月10日（火）

大学教授による研修「水平社宣言100周年から考える部落問題学習の課題」に全教職員が参加。教職員の人権感覚向上に非常に有効であった。

・8月18日（木）

大学教授による研修「日本語指導について」をZOOMで視聴。スーダンやインドの生徒についてケーススタディを実施。より質の高い日本語指導ができる授業づくりにおいて非常に参考になった。

・11月17日（木）、18日（金）

第68回全国夜間中学校研究大会に教員が参加し、夜間中学の現状や課題、果たすべき役割を理解することができた。また、その内容を全教職員に伝達講習することで、教職員全体の指導力向上に生かすことができた。

○行事の充実

・5月15日（日）

近畿夜間中学校新入生歓迎会への参加後、春の校外学習を実施。大阪市内公園で昼食後、大阪市内美術館で、特別展等を鑑賞。他国や自国の文化に触れ見識を深めることができた。

・9月30日（金）

校内ミニ運動会を本校体育館で実施。

・10月16日（日）

近畿夜間中学校連合運動会に参加。生徒の生き生きとした

	<p>姿が見られるとともに、他校の生徒との交流も図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月20日（日） 秋の校外学習を実施。博物館では、歴史や様々な動植物について学習し、陶芸の里では陶芸を体験。生徒同士や生徒と教員間の相互理解も深めることもできた。 ・ 12月14日（水） 「ミニ料理教室」を実施。本来、各国独自の料理を調理し、多文化理解に繋げているが、感染症予防の観点から、今回はたこ焼きを調理し、交流を図った。 ・ 2月12日（日） 近畿夜間中学校連合作品展に出展。当該校生徒の作品は、他校の生徒や教職員からも非常に好評であった。 ・ 3月1日（水） 卒業生を送る会として「お別れ会」を開催。音楽の授業で取り組んだ各コースの合奏やダンス、有志による歌やダンスを発表し合った。生徒の異なる文化的背景を相互に理解する場ともなった。 <p>○冊子の作成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめとして、文集「希望」第45号を作成。生徒自身の生き立ちや感じていることなどを日本語で表現することにより、これまでの学習成果の確認と振り返りに資することができた。 ・ 自分の書いた作文を「希望を語る会」（2月15日）で発表することにより、日本語でのスピーチ力向上を図るとともに、お互いを尊重し合う雰囲気醸成することができた。
--	--